会員 interview 訪問

税理士 谷 勳 会員 空知支部

誠実にお客様に向かうは、太陽に向き合うひまわりのように

今回は、岩見沢市で事務所を開業されている谷勳会員を訪問しました。平成26年に新築されたその事務所は、春は桜、夏はひまわりと太陽、秋はりんご、そして冬はどか雪と四季を感じられる素敵な場所で、たくさんのお話を伺ってきました。

1. 谷勳会員の生い立ち

旧栗沢町岐阜出身の谷勳会員。ルーツは富山県中新川郡（現滑川市）。その生い立ちから語っていただきました。

「自作農を営んでいた4代目であった父は、日露戦争で相当の手柄を立てたにも拘らず、『金鵄勲章』をもらえなかった。そのことがよほど悔しかったのか、自作農であったその土地を手放してまでの北海道行きでした。明治40年のことです」。

また、こんな話もされていました。

「私は事情があって父親59歳、母親35歳の時の子どもでありましたが、自分自身も、それから自分の息子たちも結婚が早く、現在小学生になるひ孫がおります。そういう意味では父との59年差を少しは縮められたのかと思います。（谷家は）父親が4代目でその長男が5代目、長男のところに男子がいなかったため、私が6代目……ということで現在そのひ孫が9代目ということになります。私は、父母が明治時代に来道しているのにもかかわらず、『道産子二世』なのです」。

2. 税理士を志すきっかけ

高齢のご両親が水田を耕作していましたが、家計の状況は決して楽ではなく高校に進学できたのは不思議なくらいであったとのこと。高校進学後は駅までの3キロの道のりと栗沢から岩見沢までの高校へ通う毎日。夏は自転車でしたが、冬の駅までの徒歩はさぞかし大変だったでしょう。

卒業後の進路は大学進学をあきらめ、水田農家を継ぐ道もあったのですが、ちょうど農業は機械化の過渡期、耕作面積からその道は無理と判断したようです。そこで、「合格すると必ず採用になるということと、勉強は好きではなかったけれど、少しはしなければならないかと考えており、給料（初任給は7,040円）をもらいながら1年間勉強ができると、そんなことから『税務職』に決めました」。

このことが40年後税理士になることにつながったそうです。

―税務署にお勤めになってからは道内を転々とされたのですか―

「それがそうでもないのです。昭和36年に岩見沢に赴任しました。そのあと昭和38年に当時の石狩管内の多くを管轄していた石狩税務署に異動するのと時を同じくして、北海学園大学の2部に通学するようになりました。当初は栗沢から通っていたのですが、さすがにきつくなって、岩見沢市上幌向に住まいを移しました。それから昭和59年に稚内税務署に統括で赴任するまで、21年間札幌の中でした。稚内、旭川、滝川と4年間の単身赴任を経て、再び、札幌国税局の調査課へ戻ってきました。そのあとは税務大学校の本科の教授、国税局事務管理課長、国税不服審判所国税審判官、北見税務署長、税務大学校研修所長、札幌東税務署長、そして最後は札幌西税務署長でした」。

法人畑を主に歩いてこられた谷会員。札幌国税局の調査課の時は特官部門で主に資本が40億円以上の企業を担当されており、そんな時代の苦労話もされていました。

3. TKC入会のこと

―税理士登録をされてからのお話をお聞かせください―

「平成12年の7月に40年3か月の税務署勤務を終えて、8月58歳の時に登録しました。当初は札幌西支部の事務所に勤める予定でした。しかし、事情が変わって、急きょ自宅事務所での開業となりました。そのあとも札幌の税理士先生からお声をかけていただきましたが、そうしているうちに平成13年3月に歴史ある望月武義事務所の3代目として、継承させていただきました」。

既にその事務所にはTKCシステムが導入されていたため、谷会員自身も4月に入会したということです。

併せて、現職時代のTKCとの関わりを、こうお話しされました。

「私は昭和35年から国税に勤めております。石狩税務署にいた昭和38年ごろに飯塚事件が起きました。国税の内部の広報などでその推移を見聞きしていました。映画化された『不撓不屈』とはまた違った側面を充分見せてもらいました」。

また、承継された事務所から現在の事務所に至るまでに

ついて、こうおっしゃっています。

「当時は岩見沢市内の北海道銀行が入っているビルの3階にありました。駐車場が一台もないということで、2丁ほど離れたところへ引っ越したのですが、駐車場の雪事情があまりよくないため、もともと、畑をやっていた現在の場所へ、後継者もいないのに事務所を建てちゃったということです」。

この一件が、もともとは考えられていたところではあったでしょうが、本格的に事務所承継について考えることとなったのではないでしょうか。

4. 事務所承継、事務所経営について

ー事務所の承継についてお聞かせくださいー

「今月私は75歳になります。現在関与先が法人個人合わせて300件超、職員が13名プラス私と山田和訓先生で15名体制であります。この現体制と自分の年齢を考えると、しっかり事業継承しなければなりません。そういうことで、その山田先生とともに来年の1月に税理士法人へ移行する予定となっています。雲の上の存在である望月先生の事務所を引き継いでいるので、名称は個人名を付すものとはせずに、ずっとやっていけたらなあと考えています。今、考えている名称は税理士法人ひまわりです。そのようなこともあって、昨年くらいからひまわりを植えているのです」。

見事なひまわりが畑の他の作物とともにその姿を見せていました。

ー山田先生とはどういうきっかけでー

「統一研修会の時に何名かの国税OBに“平成29年1月から税理士法人にしたいと思っているのだけど誰か一緒にやってくれないか”と声をかけたところ、自宅が幌向（隣の駅）であったこともご縁で30分で話が決まったのです」。

ー事務所経営において大事にされていることはどういうことですかー

「税務大学校の教授をやっていたときから、誠実であることが大事であると話してきました。誠意をもって事にあたるときっといい道が拓けると考えており、普段から信条としています」。

「また、職員には“みんな仲よくいい仕事をしよう”と呼びかけています。その一環として、月初めの午前中は研修時間にあてています。その内容としては、およそそれぞれ一時間ずつで事務連絡会議という全体会議、『TKCたいむ』というTKCとの意見交換会、それから企業防衛推進会議の三つを実施しています。研修漬けです。あと、中旬の月曜日には課長以上が参加する月曜会、リスマネの推進会議なども開催しています」。

「職員の共通体験ということでは、確定申告終わりに一泊旅行を開催しています。みんな、自動車通勤ということで、普段なかなか飲めないので、泊りがけで飲みに行くようなものです。それから、これとは別に10月くらいに国内外に3, 4日の行程で事務所旅行を実施しています。今年は姫路城の旅行を申し込んだのですが、人数の関係で実施されるかどうか?」。

誠実に向き合い、共通体験と研修を重点としていることが事務所経営の核になっていると感じられました。そんな話をしている中で谷会員の旅行好きな一面が垣間見えたところで。

5. 趣味

ーホームページを拝見する限り、旅行がお好きなのでは?ー

「日本ではツアーというよりも自分の車で道の駅で寝泊まりして回っています。ホテルなどは予約せずに好きなところまで走っていくという旅です。往き帰りのフェリー以外は予約なしです。

そんな旅ですから、こういうことがありました。喜多方の道の駅で朝、顔を洗っていたら、なんと山田先生にばったり会ったこともありました。あと海外は、今年ちょっとヨーロッパ5か国を巡ってきました。これでやっと29か国になりました。75歳までにと思って回っていました」。

南極大陸以外は回られたようです。ちなみに最低80万円くらいだそうです。興味は持ってらっしゃるのですね。

ー他に趣味はございますかー

「若いころは登山をしていました。登山好きが高じて、ニセコに土地を購入した程です。ただ、実況検分したところ入っていくことができない沢地でした。完全に騙されたみたいです」。

ー山はどのくらい登ってらっしゃるのですかー

「北海道の主な山は登りました。本格的には高校生の時と勤めてからは独身の時で一年に20回くらい登ったでしょうか」。

ここで何か思い出されたのか、その昔の話をされました。

「昭和36年の8月19日なんですけれど、高校の先輩が昭和32年の1月に旭岳で遭難して行方不明になったのです。その後、毎年捜索に行ってたのです。その36年の雪のすごく溶けた年、たまたま、その山に入っていた北電の電源開発の人が“馬の骨を見つけた”となんで馬の骨なんだと思っていたら人間の骨だった。そこから沢づたいに行くと点々とナップザックやザイル、カメラがあって、白骨化した頭蓋骨があったという感じで見つけたんです。20日が日曜日ということでしたから、今日で終わりという日だったんです」。とはいえ、それからもしばらくは山登りから離れなくなったものの、週休二日制ではなかったことや大学へ通うようになったころからは、体力的にきつくなって、温泉巡り、窯元巡り（ぐい呑み収集）、道の駅巡り、カントリーサイン探しなどに変わっていったそうです。

6. KFSについて

ガラッと話題は変わって、KFSについてお話をお伺いしました。先日、『戦略経営者』の取材があり17万の読者にその活用事例が紹介され、その法人ともども大変喜んでいるとのこと。KFSの中で特に重要視されているのはずばり『F』であると。

「KFSについては自計化が一番。『K』および『S』の分母の拡大につながるので大切に思っています。FX4は6社に導入しています。戦略経営者にも紹介（平成28年4月号）されています」

とTKCから送られてきていた写真を見せてくれました。そして、その場に同席していた、事務長の佐藤明彦さんにその法人のFX4導入の経緯をお話いただきました。

「土木工事業の法人なのですが、もともとは地元ITベンダーが作成した自社システムを使っていたのですが、これが土木関係が主たるシステムでしたので、産廃、介護、運送と多角経営していく中では適さない。2代目の若い経営者がこれから結果を出していくのは部門別に数字を抑えることが重要ということで導入に至ったということです」。

『K』『S』推進の土台というお考えのもと、自計化に一生懸命取り組まれているお二人のお話をお伺いすることができました。

7. 業界の変貌

ー紙の時代から電子の時代になりましたがー

「平成10～11年の札幌東税務署長をやったときに個人課税担当の副署長がK大先生（女性・故人）を案内してきたのです。自分の事務所の電子帳簿保存法の第一号の届出をされたとのことで、そんな記憶があります。うちは来年税理士法人になってからでしょうか」。

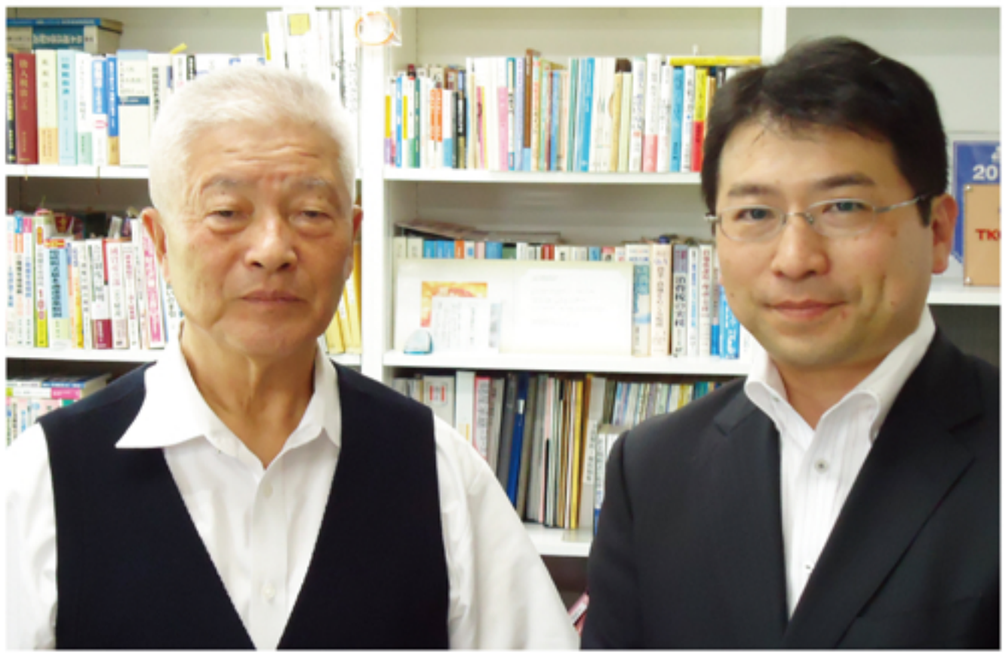
ー電子帳簿とか銀行信販データ受信機能などの関与先の反応はいかがですかー

「反応はまだまだかとは思います。そして、さらに証憑ストレージについては、お客様もわれわれもまだ半信半疑なところがあります。ただ、申告書ほか参考資料などはドキュワークスで管理していますので書類関係は非常にすっきりしていると思います。ドキュワークスは他支部への事務所見学会をした時にこれはいいということで導入しました。ただ、新築した時に棚をたくさん作ったのですけれどかなり余裕があります。余裕があると整理がつけられていない。いい現象が起きていないのです」。

8. 会員の皆さまへ

特に申し上げることはありません。もうしばらく頑張りますのでよろしくお願いいたします。

平成26年6月に事務所を新築しました。カーポートに15台駐車可能です。南側に利根別川が流れ、イタドリが繁茂しています。自然の中、空気がきれいに感じます。北側には、いもを収穫した後に大根を育てています。とうきび、トマトとともに今年もひまわりを植えています。お立ち寄りください。



取材を終えて

カーナビに住所を入れて、向かったところ上幌向の工業団地へ連れていかれました。（お聞きするとどうもうまく着かないようです。お気を付けください）そんなハプニングから始まりましたので、取材自体がどうなることかとひやひやしましたが、初対面の私を温かく迎え、私の質問に終始なごやかにお答えいただきました。そんな誠実で活発なお人柄が事務所の外に咲くひまわりに象徴されているように感じました。これからも北海道会の会員を温かく見守ってください。よろしくお願いいたします。

最後にこの誌面を借りまして、温かく迎えていただいた谷勳会員、佐藤事務長ほか職員の皆さまに厚く御礼申し上げます。お土産もいただき、さらにお昼ごはんをいただきながら、会員訪問延長戦にお付き合いいただき、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

（札幌東支部　坂本 文彦）